

子どもたちの未来に
食の安心をつなぐ

こく しょう こく さん
国 消 国 産

私たちの国で消費する食べものは、できるだけこの国で生産する

JAグループ サポーター
林修



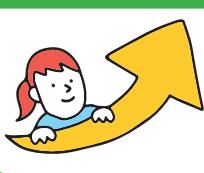
その考え方を **国 消 国 産** といいます。

日本は今、食料の 食料自給率
約6割を輸入に **自給**
輸入 頼っています。

もしも輸入が難しくなって、
必要な食べものが足りなくなったら…農畜産物は、足りなくなったからといって、すぐに生産を拡大することはできません。だから、日ごろから「国消国産」を進めることができ。とても大事。「国産」をもっと食べましょう。

国産 を食べると、**いいこと** いっぱい！

自給力アップで、
いざというとき安心！



日本の農業を
食べて応援できる！



おいしくて安全・安心な
食事を実現！



輸送で出るCO₂を
減らし、SDGsに貢献！



こく しょう こく さん
国 消 国 産

が日本の食の未来をつくります。

こく しょう こく さん
国 消 国 産 で、日本の「食」に安心を！

日本の「食」は、どうなる？

私たちの食べものは、自然の力を活かし、多くの時間をかけて作られています。足りなくなったからといって、すぐに作ることはできません。でも、日本の「食」は今、多くのリスクを抱えています。

食料の多くを輸入に
頼る日本。輸入がもし
止まつたら、どうなる？



日本の「食」が直面している
「5つのリスク」

世界や日本で自然災害
が増加。農業が受ける
ダメージは、どうなる？



農家と農地が減っている。
私たちの食べものは、どうなる？



増え続ける世界の人口と食料需要。
輸入に頼る日本は、どうなる？



高止まりする肥料・家畜のエサ・燃料。
農家の経営は、どうなる？



どれも大きなリスクですが、私たちにも
できことがあります。

日々の食卓に「国産」を取り入れる。それが日本の農業を応援し、「食」を未来につないでいくことになります。



耕そう、大地と地域のみらい。 JAグループ